



港 防災だより

No. 9

2012年（平成24年）3月1日

発行人／四日市市港地区自主防災組織連絡協議会 会長 奥村吉孝

「港 防災だより」について

港地区には、防災を考えるうえで多種多様な問題が存在しております。これらの問題に対処して行く為に重要なことは、住民／企業／行政の相互理解とそれに基づく活動であります。そのためには、日頃この三者が防災に対する情報を共有し、活動することが重要であり、その一助としてこの防災だよりを発行しています。

◎港地区総合防災訓練報告

平成23年9月25日（日）9時よりスタートしました。今回の訓練は、港地区が昭和55年の第1回防災訓練以来実施してきた一般訓練に、平成21年に導入した避難所運営訓練を合体させ、港地区総合防災訓練として実施しました。この訓練への住民の参加者は、第一次避難所で396世帯 635名、主会場で303世帯 411名でした。この他、防災連携企業・パイプライン関係企業、三重大学、行政関係者約35名の参加がありました。

一般訓練は、救命救急訓練、応急措置訓練に重点を置いた訓練を実施しました。避難所運営訓練では、従来どおり、三重大学自然災害対策室と連携し、住民と地区内主要企業、行政関係者等が参加し、ロールプレイング方式と呼ばれる訓練方法により実施しました。

これらの訓練では、実際に起こりうる状況を再現し、港地区で発生するであろう種々の出来事に対し、如何に的確に、対応処置していくかを学びました。

10月16日（日）には訓練関係者による反省会を港地区社会福祉協議会会議室で開催しました。

過去の訓練も振り返りつつ、多くの反省点・課題が取り上げられましたが、今後、より一層訓練の効果を高めるため、防災訓練の基本に改めて取り組もうとする意見も多く出されました。例えば、訓練時のヘルメット等着用、避難袋の携帯等防災意識の高揚による基本の実践、訓練参加者の拡大（近年減少傾向→20%拡大、社会福祉協議会との連携）、効果的な訓練（指導者の育成、事前準備の拡充）等です。

P(Plan)・D(Do)・C(Check)・A(Action)を回し、総合防災訓練の充実を図って行きたいと考えています。今後とも皆様のご協力をお願いします。

なお、今回の訓練は、一般防災訓練と避難所運営訓練を合体させたかたちの第一回目と云うこともあり、数次の事前の会議、事前調整等を重ね実現できたものでありますが、この間の関係者・参加者の皆様のご尽力、ご努力に対し厚くお礼申し上げます。



避難所運営訓練



救命救急訓練・応急措置訓練

11/25
(月)

地区防災組織連絡協議会・減災アドバイザーについて

平成 23 年 11 月 25 日、四日市市内各地区の防災組織が相互に連絡協調を図り、広く防災思想の普及高揚に努めるとともに防災隊の健全な発展を目指す、として「地区防災組織連絡協議会」が発足しました。また、各地区における防災活動の推進を図るうえで、隊長（会長）等の支援等を行う、として「減災アドバイザーの設置」が決定されました。

今後、港地区に関連する内容につきましては、種々の機会を通して報告して行きたいと考えています。

港地区と常磐地区 防災交流会実施

8/22
(月)



平成 23 年 8 月 22 日 常磐地区関係者 5 名の来訪があり、港地区関係者と自主防災活動への取り組みについて、特に基本とする考え方、平常時・異常時の活動についての情報交換を実施しました。東日本大震災の発生、また、東海・東南海・南海 3 連動地震発生の懸念を背景に、活発な情報交換・意見交換がなされたほか、今後の相互協力についても話し合われました。

港分署

中消防署港分署における自治会・企業との連携について

昨年 8 月、大規模災害時において、港分署に災害対策拠点を設置し、港地区の住民及び企業と港分署が連携して災害情報の収集・避難者の収容・災害対策活動を行うことを目的に、中消防署長との間で災害連携の申し合わせに伴う確認書が交わされました。（既報）

大規模災害時は、港分署へ消防署員が派遣され、災害拠点が開設されることになり、そこに地区自主防災組織・地区企業が参加することとなります。

昨年 3 月には、この確認書に基づく第 1 回訓練が実施されましたが、本年も 3 月に第 2 回目の訓練を実施します。

今後、訓練を重ね、災害連携のあり方を検証して行きます。



ハザード マップ

津波ハザードマップについて

平成 23 年 11 月《四日市市津波避難マップ》暫定版が発表されました。これは県が 10 月発表の『東北地方地震と同等規模の地震 M9 による津波浸水予測図』を基にしたものです。その結果、港地区から避難する場合、約 1 時間で中部中学校付近に到着する必要があります。自動車は使えません。この場合、時間が無ければ市指定の津波避難ビルを利用することになりますが、港地区では、なやプラザ・住友電装・住友電装 SWS センターが避難ビルとなっております。今後、各町の『避難行動指針』が必要になると思われますので各町のご協力をお願いします。



災害時炊き出し対応 LP ガス設備導入

災害時用 LP ガス

石井燃商（株）様のご協力で、災害時にプロパンガスを提供していただくことになりました。それにより、自主防災でプロパンガス用コンロ 5 台、大型調理鍋 2 台を購入、9 月 26 日の防災訓練において婦人会が炊き出し訓練に使用し、参加者に提供しました。今後も、より安全により早く大量に食事提供ができるよう婦人会と協力していきたいと思っています。

港地区の食事は地区でまかないましょう！！



グループ別防災訓練

平成

- 23 年度 尾上町グループ … 2 月 3 日 (避難行動確認訓練)
高砂町グループ … 2 月 14 日 (避難行動確認訓練)
稲葉・北納屋・浜町グループ … 2 月 15 日 (避難経路調査・確認)
西末広・南納屋町グループ … 2 月 19 日 (津波避難ビルへの避難)
千歳町グループ … 3 月 1 日 (避難行動)
中納屋・相生・蔵町グループ … 3 月末

今年度は、市の津波避難マップを参考に、避難訓練を主体に実施、また、要援護者への対応のため車椅子での避難訓練も実施しました。



トピックス

防災どなべ（土鍋）完成、納入

みなさんの防災意識を高めるため、防災どなべ（土鍋）を購入しました。“どなべ”は、港地区の小中学生が絵付けをして平成23年9月19日完成、納入されました。

この“どなべ”は9月26日の港地区総合防災訓練で初めて使用されたほか、中央小学校の三年生による11月22日の体験学習で炊き出し訓練が実施されました。

今後の防災訓練に活用していきます。



防災訓練での炊き出し訓練

JSR 社-コスモ石油社間休止埋設導管の廃止化決定

昭和40年代に敷設、使用されてきたJSR 社-コスモ石油社間埋設導管は、近年その使用を休止しておりましたが、平成23年度中に廃止され、地上部分である昌栄橋（西側）共架部分については平成24年中に撤去されることとなりました。

なお、昌栄橋（西側）共架部分については、東邦ガス社中圧ガスB供給配管も敷設されておりますが、この配管も供給ルートを新たに設けることにより撤去されることとなりました。これにより、昌栄橋（西側）共架部分の配管は全て撤去されることとなります。

3月導管管理状況 報告会開催（予定）

地区内に導管を敷設している企業5社から、この一年間の導管の点検結果等につき定期報告を受けます。
この報告会は毎年開催されております。

5月コスモ石油（株） 定期整備説明会開催（予定）

平成24年度のプラント定期整備計画につき説明を受けます。

なお、四日市製油所では、平成23年11月に「ミックスキシレン」蒸留装置が完成し、営業運転に入っております。

この報告会は毎年開催されております。

港第2市民防災隊「消火栓の設置場所」確認と点検



第1回南納屋町、西末広町、平成23年5月15日
第2回尾上町、千歳町、平成23年11月13日

目的は、火災時における的確な行動がとれるよう、また
隊員各自の市民防災隊であることの自覚と知識向上を
目指し、「消防水利地図」に基づいて設置場所の確認と点検
をして巡回しました。



鯨船山車収蔵庫 消防訓練実施される (参加者約80名)

1月26日は全国文化財防火デーの日です。
文化財を火災や震災等から保護する運動として
南納屋町鯨船山車収蔵庫において、中消防署、海
上分団、港第2市民防災隊、自主防災隊、鯨船保
存会による消防訓練が平成24年1月29日
(日)参加者約80名で実施されました。



鯨船も ひな〜ん！！



鯨船収蔵庫の消火訓練



港第1防災隊の夜間パトロール

昭和58年度より毎年続いている四町（稲葉町、高砂町、北納屋町、中納屋町）による夜間防災・防犯パトロールを実施しました。

各町持ち回りで、日曜日の夜20時～21時まで四町のパトロールを実施しています。

本年度は12月4日～2月26日の間の日曜日に実施しました。



寒い中ごくろうさまです！！



火のよ～じん



『わたしたちのまち（港地区）の防災』見直し

昨年9月26日総合防災訓練を実施しました。

まずは全員の『和』です。

『和』なくして避難所生活はできません。

残念ながら基準化も不可能です。良い方法がないかと思案しております。

第2に初心にかえること

子供・女性は防空ズキン、行動主体の男性はヘルメットと運動靴（防災隊は長靴）が基本です。

第3に各町自治会長、副会長はもちろん全員の意識です。特に町別に規定した班別行動マニュアルは全員参加が前提。

これらを再検討して「マニュアル」に反映させ、次回平成24年度の訓練で役立てたいと思っています。



平成24年度自主防災関連主な総会の予定

5月11日（金）

港地区自主防災組織連絡協議会／防災連携企業 代表者会議

6月3日（日）

港地区自主防災組織連絡協議会総会

災害時における応急対策の協力に関する基本協定についての報告

災害時協力覚書締結をおえて

九鬼肥料工業株式会社は文化2年（1806年）に創業以来、この四日市の地で肥料事業を続けてまいりました。昨年、弊社は株式会社設立50周年を迎え、その間地域の皆様には格別のご高配を賜りましたことを心より御礼申し上げます。改めて企業の存続は地域社会との関わりなくしてはありえないと考える次第です。

また、昨年は東日本大震災という古今未曾有の弊社に於いては業界からの要請により肥料の増産支援を致しました。その際は地域の皆様には操業の延長等にご理解を賜りました。このような状況を踏まえ、地域社会との連携を更に緊密にすることの大切さを再認識いたしました。つきましては「港地区連合自治会様」及び「西末広町自治会様」との「災害時協力覚書」を締結させて頂きました。

今後とも、微力ながら地域社会のため協力させていただく所存ですので、引き続きご指導ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

九鬼肥料工業 株式会社
代表取締役 九鬼 十三男

災害時における応急対策の協力に関する基本協定を9月6日九鬼肥料工業株式会社様と締結

2月末現在

11社1団体と締結済



《防災委員》

荒川 博	家城宏光	大川泰生	奥村吉孝	春日伸夫	加藤 亘
川崎光俊	糸内利雄	小崎重夫	瀬川 宏	竹内 勇	堤 明
堤 義隆	寺井 勝	中島三好	長谷川雄俊	樋口俊夫	藤村昇平
松田裕文	水谷敏郎	宮崎裕之	山川敏男	山口 輝	山田鑛明
山田正幸	山本慶太郎				

（敬称略・五十音順）

《協力企業》

石井燃商(株)	伊勢湾倉庫(株)	(株)エネックス	協同海運(株)	九鬼産業(株)
九鬼肥料工業(株)	コスモ石油(株)	佐藤クリニック	三エスゴム(株)	JSR(株)
昭和炭酸(株)	住友電装(株)	第一工業製薬(株)	大成建設(株)	大宗建設(株)
太平洋セメント(株)	高砂建設(株)	中部海運(株)	中部電力(株)	四日市火力発電所
中日本建設(株)	東ソー(株)	東邦ガス(株)	東陽興業(株)	日本板硝子(株)
日本海事検定協会	日本貨物鉄道(株)	日本通運(株)	日本トランスシティ(株)	
(株)ニヤクコーポレーション		林興業(株)	三菱化学(株)	
四日市海運(株)	四日市電機(株)	四日市港郵便局		

（五十音順）